

指導資料



鹿児島県総合教育センター

音楽 第44号

—中学校，特別支援学校対象—

平成25年4月発行

中学校音楽における創作指導の工夫

学校では，学校行事や合唱コンクール等との関連から，授業内容が歌唱の活動に偏る傾向があり，表現の他の分野と鑑賞の学習が十分でない状況が見受けられる。このことについては，中教審においても音楽科の課題として取り上げられ，特に，創作と鑑賞の充実が求められている。

創作は，「音符や楽譜がよく分からない。」，「時間がかかる。」，「旋律を五線譜に書くのは難しい。」などの理由から，生徒の苦手意識を生みやすい分野である。

平成17年に国立教育政策研究所の教育課程研究センターが実施した「音楽等質問紙調査」によると，「(簡単な)旋律をつくって表現すること」について，「好きだった」「できた」と肯定的な回答をした生徒の割合は，3学年とも40%未満であった。

生徒が「簡単な旋律をつくって表現すること」が好きになるだけでなく，できたと思えるような授業を展開することが課題である。

そこで本稿では，音楽をつくる楽しさを体験させる観点から，中学校音楽科の創作指導に焦点を当て，その工夫について述べる。

1 思考力を育成する創作活動

今回の学習指導要領改訂では「A表現」

領域，「B鑑賞」領域，〔共通事項〕で内容の全体を構成するとともに，指導のねらいを一層明確にし，生徒が感性を働かせて感じ取ったことを基に，思考・判断し表現する一連の過程を大切に学習の充実を求めている。言い換えれば，音楽科の特性に即した思考力，判断力，表現力等を育成する指導を行い，音楽科のねらいを真に実現する教育を進めていくことを目指しているのである。

音楽科における表現・鑑賞の2領域4分野の学習活動の中でも，創作は，生徒が音のつながり方を試しながら短い旋律をつくったり，音素材を選びまとまりを工夫して音楽をつくったりする活動であるため，歌唱や器楽の分野にも増して，思考力を育成するために有効な学習活動である。

2 創造的音づくり（創作活動）の重要性

音楽における創造性は，単に創作の分野においてのみでなく，他の分野においても考えられるが，創作の分野が，表現における中核ともいえるべき位置にあると言われるのは，芸術における表現が創造であるという見地からして十分うなずける。

歌唱や器楽における表現では，すでにあ

③ 鍵盤楽器の黒鍵の部分（鍵盤に数字を付ける）を使って、理論よりも遊び感覚を生かして、楽しみながらできるように、数字譜を使った短い簡単な旋律（4/4拍子・8小節）を創作させる。

④ 生徒にとって身近なわらべうたや子守歌、民謡などの音階を使って、旋律をつくらせる。

⑤ 旋律に、和音をつけさせる。旋律のコードネームを基に、選ぶ音は示す。グループで主旋律と創作した和音の部分を、アルトリコーダー等で演奏させる。

⑥ まとまった旋律づくりの手掛かりとして、リズムパターンを決めたり、音階の中で使用する音を限定したりして旋律をつくらせる。

[歌詞・旋律づくり]

⑦ 言葉に、その言葉のもつ自然なリズムに合わせてリズムを付けさせるとともに、言葉の抑揚やアクセントによる音の高低などを生かした旋律を付けさせる。その際に図形譜も活用させる。

⑧ 七五調の短い歌詞をつくり、歌詞の内容や言葉の語感から豊かなイメージを膨らませた旋律をつくらせる。

[表現の工夫]

⑨ 創作した旋律に、速度や強弱の変化を付けるなど、表現の工夫をさせる。

生徒の負担感を軽減し、短い、単純なことから少しずつ広げていく段階的な活動を通して、生徒も「つくる」楽しみへの意欲を高めることができる。例えば、旋律創作では、最初は使用する音を限定するが、最終的には制限なしで自由に創作させることが大切である。

4 創作指導の実践例

表3に示すのは、創作の導入に種子島民謡「子守歌（ようかい）」を取り入れた実践例の指導計画である。

表3 題材の指導計画(全4時間)

第1時	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の意味や内容を捉えながら、子守歌を歌う。 アルトリコーダーで演奏し、旋律の変化や表情を生かした表現を工夫する。
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 4/4拍子・8小節のリズムパターンを考える。 グループを編成し、リズムパターンを組み合わせて、8小節のリズム譜をつくる。 グループで、リズム譜に音の高さや流れを図式化する。
第3時	<ul style="list-style-type: none"> 子守歌をアルトリコーダーで演奏する。 1人が1小節を担当し、前時に図式化したリズム譜を基に音を付け、リレーしながら8小節の旋律を完成させる。 グループごとに作品を発表し、自己評価・相互評価をする。
第4時	<ul style="list-style-type: none"> リズムパターンを基に、8小節のリズム譜をつくる。 リズム譜に音の高さや流れを図式化した後8小節の旋律を完成させる。 完成した作品をグループで発表し、自己評価・相互評価をする。

この曲は、日本の伝統音楽の基本的な音階「五音音階」によって作曲されている。使われている音は、ド・レ・ミ・ソ・ラの五音であり、この曲を基に創作をするに当たって、生徒は、容易に音のつながり方を試すことができる。また、歌唱やアルトリコーダーの演奏も容易にでき、曲の特徴を捉えた上での感性的側面からの理解もしやすい。そこで、この曲に使われている音階を使って、4/4拍子・8小節の楽譜を生徒たちに創作させる。最初はグループで役割を分担し協力しながら一つの曲を創作し、アルトリコーダーで演奏させ、各グループの発表について自己評価・相互評価を行う。

表4は、指導計画第3時の授業展開である。

表4 指導案の展開（題材「つくって表現しよう」3/4）

時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点
5分	1 「子守歌（ようかい）」を、アルトリコーダーで演奏する。 ・ 正しい姿勢で、曲想を考えながら演奏する。 ・ プレスの位置や音符の長さを意識して演奏する。	一斉	○ 全員で「子守歌（ようかい）」を演奏させる。 ・ 演奏前の緊張をほぐすような声掛けをしながら、姿勢に気を付けさせ、伸び伸びと演奏できる場の雰囲気づくりをする。 ・ 曲に込められた思いや曲想を確認し、表現を工夫させる。
5分	2 本時の目標について知り、本時の流れについて説明を聞く。 各グループで創作したリズム譜をもとに、旋律をリレーしながら曲をつくり上げよう。	一斉	○ 本時の目標を知らせ、本時の流れを説明する。 ・ 前時までの学習の流れを振り返らせながら、本時の目標を生徒たちに考えさせ、引き出せるようにする。 ・ 曲のつくり方について助言をし、スムーズに創作活動が進むようにする。
5分	3 前時の学習を振り返りながら、それぞれの担当する小節を作る。 ・ リズム譜をもとに自分のイメージする音を五線譜に記入する。 ・ 自分の小節が完成したら、次の人へ伝えて、つながりを確認する。	個人	○ 各グループで、前時に創作したリズム譜をもとに、自分の担当する小節の旋律を考えさせ、五線譜に記入させる。 ・ 自分の担当する小節のリズム譜を確認させ、リズムどおりに音を付けさせる。 ・ 担当する小節の次の担当者に、自分で創作した音の流れを伝えさせる。
15分	4 旋律をリレーしながら、グループで8小節の作品をつくり上げる。 ・ 一通りの旋律が完成したら、キーボードを使って、音の流れを確認し、おかしいところは、その都度修正する。 ・ 作品が完成したら、アルトリコーダーで演奏する。 ・ リコーダー演奏がうまくできたら、うまくいかない友達の援助をする。 ・ 演奏ができるようになったグループは、強弱の変化をつけるなど、表現の工夫をする。	グループ	○ それぞれが作った小節を、お互いに伝えあいながら、8小節の作品をつくらせる。 ・ 楽譜が一通り完成したら、キーボードを使って音の流れを確認させ、修正を加えさせる。 ・ つまづいているグループについては、その都度助言をし、作品がスムーズにできるように援助する。 ・ 作品が完成したグループから、アルトリコーダーで作品を演奏できるように、練習に入らせる。 ・ 進みが悪いグループには声掛けをし、一緒にアルトリコーダーで演奏したり、拍をとったりしてあげるなど、演奏の援助をする。 ・ 正しい音程やリズムで自信をもって演奏できるようにさせる。
15分	5 グループごとに、それぞれの作品を発表しあう。 ・ 自分たちの作品を、自信をもって演奏する。 ・ 他のグループの演奏をよく聴いて、感想や気付いたことなどを、ワークシートに記入する。 ・ 発表された作品について、相互評価し、意見や感想を発表する。	グループ 個人	○ グループごとに、完成した作品を、アルトリコーダーで演奏させる。 ・ 各グループのリズム譜を示し、リズムの流れを把握させる。 ・ リラックスして、間違いを恐れず、伸び伸びと演奏するように声掛けをし、聴く生徒については、鑑賞マナーを意識させる。 ・ 演奏終了後、他のグループの演奏について、曲を聴いての感想や気付いたことなどを、自由にワークシートに記入させ、数名の生徒に感想を発表させる。
5分	6 本時のまとめをし、旋律創作の感想を発表する。 ・ 次時の学習の流れを知る。	一斉	○ 旋律創作についてのまとめをさせ、感想を発表させる。 ・ 次時は、今回の創作過程と同じ流れで、一人で、4/4拍子・8小節の作品を完成させることを知らせる。

「音を考えて出し、それをある意図をもってつなげ、まとまりをつくる」という活動が創作であり、この経験を授業に取り入れ、生徒に「つくる喜び」、「工夫する楽しみ」を味わわせることが大切である。

【参考文献】

- 西園芳信著「『思考力』を育てる『自由な発想による音楽づくり』の学習指導」平成6年 日本書籍
- 山本文茂監修「これからの中学校音楽ここがポイント」平成14年 音楽之友社
- 藤沢章彦編著「新学習指導要領ガイドブック」平成20年 教育芸術社
(教職研修課)